

29年に売上高100億円へ

新報国マテリアル、新中計策定

新報国マテリアルは9日、新たな中期目標を策定したと発表した。

「インバー合金グローバルニッチトップ」を掲げ、6年間総額で20億円の設備投資を計画し、創業80周年にあたる2029年12月期決算（非連結）で売上高100億円、経常利益15億円、ROE（自己資本利益率）15%、

PBR（株価純資産倍率）1倍以上、年間90円配当を目指す。

新中計では創業80周年のあり姿として「少数精鋭で新報国インベーションを起こし、インバー合金世界一を獲る」をビジョンに設定。実現に向けて創造的研究開発と革新的製造技術、積極的販売戦略に取り組み。創造的研究開発では24―29年にお

いて、高精度熱膨張測定器や3D積層造形試験装置、酸素・窒素・蛍光X線分析装置などを導入する計画。最先

端半導体製造装置向けは強磁場下や超高真空下で適用可能な、また産業機械向けでは高応力下や極低温・水素環境下で適用可能なインバー合金の開発に照準を合わせる。環境対策関連では水素新製造ブ

ロセス用高強度合金開発も視野に入れる。

革新的製造技術は鋳造・3D・鍛造の3本柱を確立する。新中計期間内で3D積層造形設備、3D砂型製造装置や溶接および砂混練ティーチング装置、自動溶解設備を設置する予定。

また鋳造品製造でAI化を検討。金属3D積層造形技術では高剛性合金の開発も目指す。販売戦略では宇宙や航空、環境などの分野に積極アプローチする。